

池間島の三輪大介さんから、魚部にイヌブーを調査してほしいという話が舞い込んだ。三輪さんはゲッチョ先生の教え子さんで、池間島のNPO法人いけま福祉支援センターの方。

クドウ隊長、

池間島イヌブー探検す。

ところで、池間島ってどこ？イヌブーってなに？そんな基本的な事柄すら知らない魚部だった。ともあれ、水生昆虫がメインという事で、クドウ君を隊長とする調査隊が池間島に向かった。



島内でもあまり顧みられなかったイヌブー

あとでも紹介するが、イヌブーは元は海。そして今は沖縄県で最大の淡水の湿地。草ぼうぼうの湿原は、野鳥たちの楽園だが、人びとは特に用はない。むしろ、子どもたちだけで近づくなどと言われ、人びとの関心も失われているのが近年の実情らしい。島のタカラモノを探す三輪大介さんらは、島の大きな部分をしめるイヌブーに何がいるのか知らないまま、分からないままなのはもったいない。池間島の大事な場所の一つなのではないかと思ひ、水の中の生きものを調べて子どもたちにも伝えたいと考えたようだ。

イヌブー、広すぎる…

実際にみると、まあ広いこと！調べ尽くすなんて、とんでもない。というわけで、大まかに2つに分けて調べることにした。水面が見える、つまりある程度の水深がありそうな展望台側。それと一面の草原にしか見えない港側。その2方向から入ってみた。

イヌブー以外の湿地も調べる。

元田んぼと聞いた湿地。灌木に手こずりながら、クドウ隊長はやつと到達。ハイイロゲンゴロウにアマミチビゲンゴロウ、トゲバゴマフガムシ類。意外とおらんなあ…とふと何気なく水をなめると「あら？塩気がある！」道理で少ないわけだ。「セイネン（青年）ガー」という井戸のようなものがあると聞いた。なぜ青年と名付けたのかと尋ねると、「掘った昔の人たちが青年だったからさー」。なるほど（笑）ここは結局見つからず。サトウキビ畑近くにあった水路でガサガサ。リュウキュウセシジメンゴロウがいただけ。

番外編 池間島を歩く。買い物をする。

クドウ隊長、調査の合間に集落をしばしば散歩。すれ違ったおじいさんに「お前はどこの息子やったか？」どうやら池間人に見えるらしい隊長であった（笑）散歩で立ち寄るお気に入りの店は、砂辺商店。びっくりするほど奥行がない！でも、品揃えは想像以上。その思いがけなきが楽しい。



▶砂辺の砂辺商店で買い物をしたクドウ隊長



▶山口さんご夫妻、三輪さんご夫妻と

▶ミルク酒の作り方を伝授中の修さん



▶ついでに飲み過ぎるミルク酒笑

番外編 池間島で食べる。飲む。

三輪さんご夫妻が夕食の場を用意してくれた。それが山口修・ゆかりさんご夫妻の家。民泊事業に参加して修学旅行の高校生などが宿泊するらしい。修さんはマーマチなどを釣る漁師だ。島の食材もたまち美味しい一品に仕立てるゆかりさんは、実は非常に採集好きで修さんも舌を巻くほどの採集上手らしい（笑）詳しい話はあとのページで紹介するが、池間島滞在中に二度もゆかりさんのご馳走をたらふく食ったクドウ隊長。さらに修さんが作ってくれた「ミルク酒」もごくごく。泡盛を「鷺ミルク」で割ったものだ。飲みやすくて、ついついお酒が進む夜になっていく…

水陸両用のクドウ隊長。そして陸生昆虫でも、水生昆虫でも、同じように網に顔をものすごく突っ込んでるし…（笑）



イヌブーで最小の水生昆虫の一つ「ヤギマルケンゲンゴロウ」



▶イヌブーで最大の水生昆虫「ヒメナトリケンゴロウ」

▲砕水船クドウ丸よろしく、ガマの森を進んでいく…

▼アプローチに大苦戦した湿地。しかも淡水にあらず…



数少ない水路も調査



池間島写真館 1960年代の イーヌブー



水門のところで遊ぶ島の子どもたち



参考：ガイドマップ「池間島ガイドマップ」(NPO法人いけま福祉支援センター発行、2014年3月31日)



数十年前までは海だった！ 宮古諸島・池間島にある淡水の大湿地「イーヌブー」

もとは魚介類が豊富な入り江。島民たちの「食糧庫」だったらしい。
漁港整備が1963年～1982年に行われ、海と遮断されて広大な淡水湿地となったそうだ。

Ikemajima Map

池間島灯台
野鳥展望台
池間湿原(イーヌブー)
水源地
池間小学校
池間漁港
池間食堂
池間大橋

池間島
伊良部島
下地島
水納島
多良間島
宮古島
東シナ海
台湾
西表島
石垣島
沖縄本島
太平洋

池間島は宮古島から北西約16km、池間大橋(1992年開通)で繋がっており、市街地からは車で30分ほどの距離です。周囲9km、車で10分もあれば1周できてしまう小さな島です。

池間島灯台
ミーヒートウガイ(ハート岩)
池間食堂
池間大橋

池間島仕様の自転車
必ず荷台にカゴが備え付けられている

池間島の自然の小さな小さなタカラモノ。

イーヌブーの水生昆虫図鑑 + その他の水辺の生物



ハイロゲンゴロウ



タマケシゲンゴロウ



サビモンマルチビゲンゴロウ



トビロゲンゴロウ



リュウキュウセスジゲンゴロウ



台湾セスジゲンゴロウ



ミナミツブゲンゴロウ



ヒメフチトリゲンゴロウ



コガタノゲンゴロウ



ウスイシマゲンゴロウ (西表島産 北野忠氏撮影)

池間島の水生昆虫については、近年青柳(2011)によって調査結果のまとめと過去の記録の整理がなされた。それによれば、水生甲虫類4科21種、水生半翅類5科7種の合計9科28種が記録されている。

イーヌブーを中心に、水たまりや水路など他の湿地も含めて島全体を調査し、全部で34種確認することができた。そのうち、過去の記録にあるが今回採集できなかったものは6種(ウスグロヒラタガムシ・アカヒラタガムシ・マメガムシ・シナトゲバゴマフガムシ・メミズムシ・コブイトアメンボ)である。一方、今回の調査で新たに確認されたのが9種(アマミチビゲンゴロウ・サビモンマルチビゲンゴロウ・オオマルケシゲンゴロウ・タマケシゲンゴロウ・ミナミツブゲンゴロウ・タイワンセスジゲンゴロウ・リュウキュウセスジゲンゴロウ・ハイイロゲンゴロウ・モリモトケシカタビロアメンボか?)いた。



コツブゲンゴロウ



チビコツブゲンゴロウ



シナコガシラミズムシ



ヤギマルケシゲンゴロウ



コケシゲンゴロウ



ツヤコツブゲンゴロウ



アマミチビゲンゴロウ(宮古島・城辺産)



オオマルケシゲンゴロウ



コマルケシゲンゴロウ



ミズカメシ



マダラミズカメシ



長翅型。草地に多数生息



セスジアメンボ



モリモトケシカタピロアメンボ (か?)



オキナワイトアメンボ

その他の水辺の生物



カダヤシ



カワニナの仲間



オカガニ



リュウキュウヒメオカモノアラガイか?



モノアラガイの仲間



サカマキガイ



サキシマヌマガエル



ミヤコヒキガエル



ティラピアの仲間

■参考文献／青柳 克(2011)池間島の水生昆虫類.琉球の昆虫,35:95-100
■謝辞／北野 忠氏(東海大学)に写真をお借りしました。厚くお礼申し上げます。



チビヒラタガムシ



チビマルガムシ



セマルガムシの仲間



ルイスヒラタガムシ



コクロヒラタガムシ



クロヒラタガムシ



トゲバゴマフガムシの仲間



ミナミヒメガムシ (西表島産 北野忠氏撮影)



コガタガムシ



マルミズムシ

2.4mm